

- 1 当該学年・学期等における探究課題 《稲倉の自然》
- 2 単元名 『発見！私たちの井原市』（全45時間=実施時期：5～12月）
- 3 単元のねらい

自分たちの住む地域の自然について調べ、井原デニムの原料である綿の栽培や工場見学などの体験活動を通して、井原デニムの良さに気付き、ふるさと稲倉をより大切にしていこうとする態度を育てる。

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
主な活動		・地域の自然について知っていることを共有したり、稲倉地域資源保全協議会の皆さんから綿の栽培について教えてもらったりする中で、さらにこれから調べていきたいことを話し合う。	・綿の栽培方法について調べ、学校園で綿の栽培を行う。 ・井原デニムの歴史や良さなどについて調べる。 ・デニム工場見学やデニムワークショップを実施し、話を聞く。	・今まで調べたことや話を聞いて分かったことをもとに、自分たちにできることを具体的に考え、プレゼンテーションソフトを用いてまとめる。	・井原デニムの歴史や良さをまとめ、保護者や地域の方に伝える。
引き出した 姿	いばら愛 <small>(郷土愛と当事者性)</small> もの	・地域の自然について知っていることを共有し、関心をもつ。	・デニム工場の見学やデニムワークショップなどにより、実際にデニム製作に携わっている方の思いを聞き、デニムについての知識を深める。		・稲倉の自然の良さに気付き、稲倉地区の一員として、自然を守るための行動がわかる。
	やり抜く力 <small>(忍耐と向上心)</small>		・グループで設定した課題を解決するために、調べ方やまとめ方を工夫することができる。学校園の綿の栽培の世話を協力して行うことができる。		
	まき込む力 <small>(発信と協働)</small>	・疑問に思ったことやもっと調べたいことを伝えている。	・疑問に思ったことやもっと調べたいことを伝えたり、友達と共有したりしている。	・調べた情報や今までの気づきを友達と協力しながら整理・分析している。	・ふるさとの自然を守るためにどのような行動をとるべきか、自分事として考え、自分の思いを異学年の児童や家族に伝えている。
仕掛け・工夫	もの		井原デニム 綿の栽培		
	ひと	稲倉地域資源保全協議会	稲倉地域資源保全協議会 おのはなこ商店		異学年児童 保護者 地域の人
	しごと <small>(こと)</small>		日本綿布株式会社		
アウトプットの工夫		・調べたことや分かったことをグループで協力してパワーポイントにまとめる。 ・学校園で育てた綿を収穫し、メッセージカードと種を保護者や地域の方に配布し、綿への関心をもっていただく。			

5 他教科・領域、学校行事等との関連

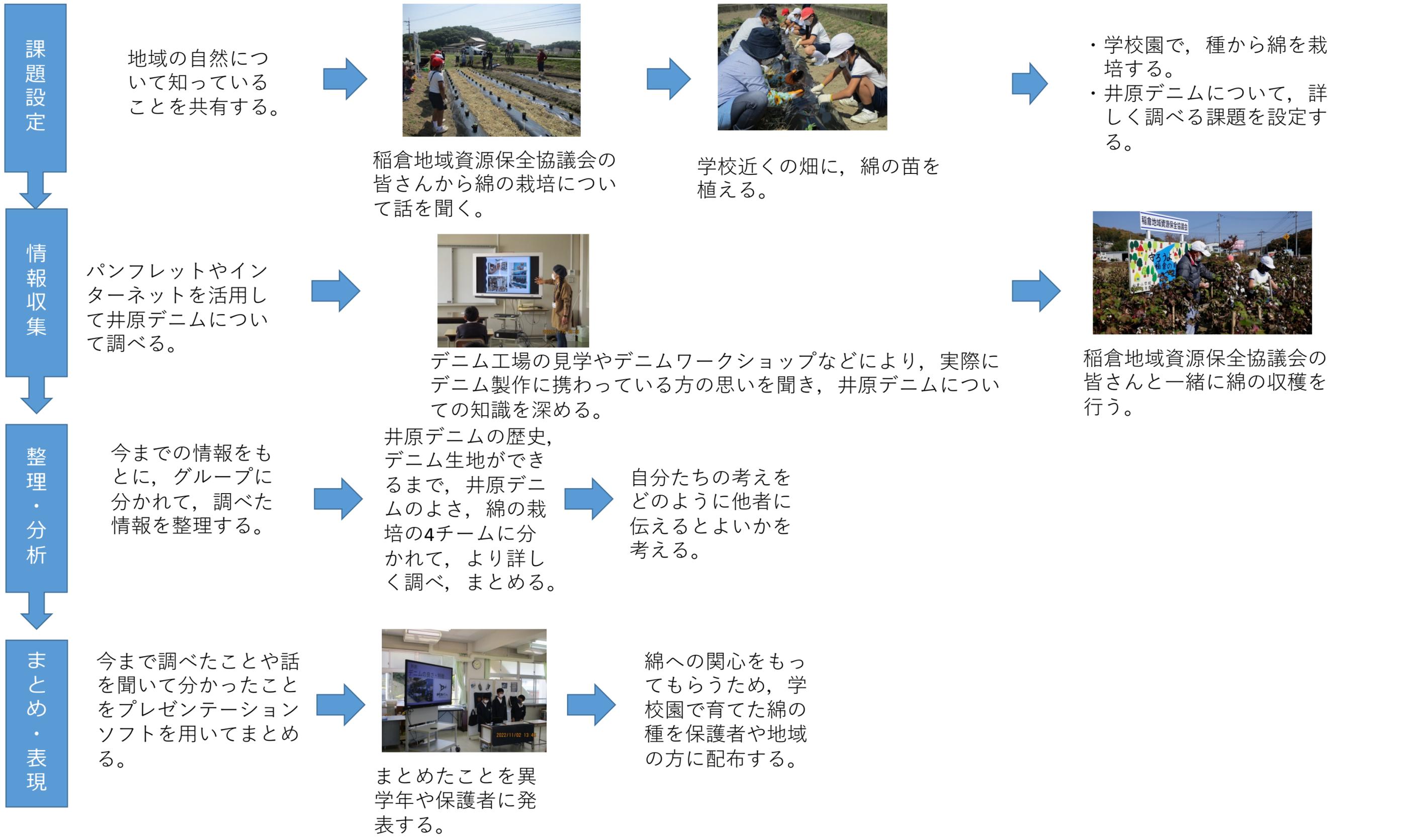
理科 「あたたかくなると」「あつくなると」「すずしくなると」「さむくなると」
 社会 「地いきの発てんにつくした人びと」

6 他学年、他校（園）種、外部団体との連携・接続・交流

稲倉地域資源保全協議会
 稲倉小学校の異学年児童

稲倉小学校・3・4年 単元名『発見！私たちの井原市』の流れ（探究過程）と活動の実際 担当【天野 真紀】

◆単元のねらい「自分たちの住む地域の自然について調べ、井原デニムの原料である綿の栽培や工場見学などの体験活動などを通して、井原デニムの良さに気づき、ふるさと稲倉をより大切にしていこうとする態度を育てる。



◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

○課題設定で、地域の方と一緒に綿の苗を植えたことで、稲倉地域の自然を守っていこうとする方の思いに触れることができたのが良かった。また、デニム工場やワークショップを行うことで、より井原デニムの魅力に出会うことができた。

△インターネットを活用した情報の精査やプレゼンテーションソフトを使っでのまとめは、3年生には難しい面もあり、時間がかかった。

☆学校近くの畑での綿の栽培について、苗植えと収穫だけでなく、さらに地域の方との関わりを増やしていきたい。